

【要聞】二次合金と合金スクラップが減少

スクラップの販売は当面厳しいか

橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

五月前半は、米中通商協議への期待感や四月の米非農業部門雇用者数は二六・三万人増トランプ大統領の自動車関税発動延期示唆を受け貿易摩擦への警戒感が後退する一などのプラス材料もあったが、中国国家統計局がこの日発表した四月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は五〇・一と、前月(五〇・五)から低下し、中国は昨秋に五・一〇%の追加関税をかけた六〇〇億ドル分の米製品について六月一日から税率を最大二五%に引き上げることを発表。米中対立激化が世界経済に悪影響を与えるとの警戒感が強まったことを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、五月十五日時点で一七九二ドル(セツル)と月初価格から一七ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は五月の米消費者信頼感指数が二三四・一となり、事前予想の一三〇を大幅に上回り、米景気指標の好調な数字となった一などのプラス材料もあったが、グーグルがファーウェイへのソフト供給停止を表明など、米中貿易協議の先行き不透明感が増し中国政府が米国への対抗手段としてレアアースを利用する用意があると報じられている一ことを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、六月四日現在、後半スタート価格から三八・五ドルDOWNの一、七六三・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)  
一一二・八五→一一〇・六二(円)。

◆自動車生産台数  
日本自動車工業会によると、三月の自動車生産台数は前年比四・一%減の九〇万五九三台であった。

輸出(四月)は四二万二、六四六台で前年同月比二・一%減。

◆自動車販売台数  
日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・八%増の二四万七、三三八台。

◆新設住宅着工件数推移  
平成三十一年四月の住宅着工戸数は七万九、三八九戸で、前年同月比で五・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九三・二万戸(前月比五・八%減)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一三四・五%増の一二四t、二次合金が一三・四%増の一、五二〇t、スクラップが一四・四%増の一、六二五t、アルミ缶が五・八%増の七、〇八二t。

輸入

輸入は新地金が前年比一三三%増の一三万九、三九八t、二次合金が九・二%減の九万五、二八六t、スクラップが二三・二%増の六七三t、合金スクラップは一八・七%減の三、一一三t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三%減の一六万六、七九二t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・六%減の六万八、三九四tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、三月の自動車生産台数は前年比四・一%減の九〇万五九三台であった。

輸出(四月)は四二万二、六四六台で前年同月比二・一%減。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・八%増の二四万七、三三八台。

このうち、乗用車は五・二%増、貨物二%増、バス五・八%増。

【住宅】

・平成三十一年四月の住宅着工戸数は七万九、三八九戸で、前年同月比で五・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九三・二万戸(前月比五・八%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で五カ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家は増、貸家及び分譲住宅は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

〔四面より続く〕

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比三%減の一六万六、七九二tと一六カ月連続マイナス。

このうち、板類は一〇万四、〇六一tで二・三%減と一六カ月連続でマイナス、押出類は六万二、七三二tで四・一%減と二カ月連続でマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比〇・六%減の六万八、三九四tで四カ月連続マイナス。出荷は〇・九%増の七万〇、〇五〇t。

【輸出】

アルミ新地金が前年比二・四・五%増の二四t、二次合金が三・四%増の二、五二〇t、スクラップが二四・四%増の二万六、六三五t、アルミ缶が五・八%増の七、〇八二t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比一・三%増の三万九、三九八t、二次合金が九・二%減の九万五、二八六t、スクラップが一・八・七%減の三、一一三t。

【見通し】

・自動車は生産が四・一%減。国内販売台数が前年比四・八%増。

生産は再びマイナス。生産はマイナスだが販売はプラスであり、今後注視。

・アルミ圧延・押出品生産数量

板類・押出生産合計は前年比三%減と一六カ月連続マイナス。

板類は一〇万四、〇六一tで二・三%減と一六カ月連続でマイナス、押出類は六万二、七三二tで四・一%減と二カ月連続でマイナス。今後更にマイナスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績

生産は前年比〇・六%減の六万八、三九四tと四カ月連続マイナス、出荷は〇・九%増の七万〇、〇五〇t。今後マイナスが続くかの動向に注視。

・アルミ輸出は、内需低迷から全品種増加。

・アルミ輸入は国内自動車製造業の生産停滞減少から合金系は減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は価格の急落や大型一〇連休前の手仕舞い売り、稼働日低下による発生減から少ないのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

米中貿易戦争による世界景気後退懸念からメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向トランプ米大統領の訪英の動向に左右される。

米中貿易に関して予想外に過熱の一途を辿っているが、六月末のG20で一旦休戦になる事を期待したい。

トランプ米大統領の訪英に関しては、次期首相候補のジョンソン氏との直接会談も模索するとみられる。実現すれば、ジョンソン氏には最も重要な同盟国のトランプとの緊密な関係を早くもアピールできるはずだが・・・これらを踏まえた二月のアルミ価格は、一、六〇〇～一、八〇〇ドル。

スクラップ購買価格に関しては五円安、一〇円安程度と予測している。

企業の慎重姿勢が強まる

米中貿易摩擦の激化を警戒

米連邦準備制度理事会（FRB）が五日発表した全国一二地区の連銀景況報告（ペーヂブック）によると、景気は「控えめに拡大」した。前回四月から判断をわずかに引き上げたが、先行きの不確実性が広がっていると判断。米中貿易摩擦の激化を警戒し、企業の慎重姿勢が強まっていることが示された。報告は十八、十九両日に開かれる金融政策会合の討議材料。調査期間は五月半ばまでとなっているため、米中貿易協議の頓挫を受け、両国が互いの輸入品に制裁関税を発動した事態を全て反映していない可能性がある。

経済活動はほぼ全ての地区で拡大したが、一部では製造業が鈍化するなど、減速の兆しが出ている。先行き不透明感を受け「企業が投資を遅らせている」（フィラデルフィア連銀）との指摘もあった。

雇用は総じて拡大した一方、物価は控えめな上昇にとどまった。「インフレが鈍化した」（クリーブランド連銀）との分析もあり、物価上昇圧力が一般的に抑制されていることが報告された。FRBは、貿易摩擦の激化が景気の重しになる事態に警戒感を強めている。パウエル議長は「適切な対応を講じる」と明言し、成長鈍化を見据えた「予防的な利下げ」の可能性を示唆している。